sugawara Title:道へき・複連　127号②.ec6 Page:6 Date: 2006/11/29 Wed 10:24:04

2．研究内容

「授業で育てたい力と全校活動をつくりあげる力の関連を明確にし、一人一人を大切にした指導を工夫することで、研究主題にせまることができるであろう。」という仮説のもと、三つの研究視点「育てたい力を明確にした指導計画の工夫」、「個に応じた指導の工夫」「互いに学びあう場の設定の工夫を設定し実践的研究を進めてきた。

3．公開授業

(1) 授業公開

小３・５・６年生総合的な学習では、「文化祭の内容から発展したテーマ学習」ということをキーワードに課題解決学習を追究させた。小３～６年生の児童が助け合いながら自分の決めた課題を追究していく姿が見られた。

中学校国語の授業では、「伝統を受け継ぐ～平家物語」を単元として、「敦盛の最期」の読み取りを中心としながら、生徒一人一人が自分の考えを持ち、その考えを発表しい認め合うという授業を発表した。

(2) 全校討議の公開

「文化祭バザーについて」をテーマに、全校児童生徒による話し合い活動を発表した。提案者の意向と児童生徒一人一人の思いや意見の食い違いから生じる葛藤を全員の意見で解決していこうとする姿を見られた。

4．研究協議

公開授業の協議では、小学校総合に対して、子どもに任せる部分と教師の指導との関連が話題となった。中学校国語では、日頃なかなかできない国語専門の方々から多岐にわたって意見をいただくことができた。全校活動では、参観者から、「自分の意見をしっかり発表し、一生懸命に伝えようとしていた子どもたちの姿に感動した。」という感想も述べられ、小中併置校の特性が生かされた活動であると高い評価を頂いた。

今回の研究会を通じて、小中併置校としての良さや可能性を再確認できた。この良さや可能性を児童生徒一人一人の成長を図るという視点で更に高めていかなければならないと考える。

授業や教育活動を創り上げるための実践的研究への方向性を与えて貰った研究会となったことは教職員全員の喜びである。

第４分科会
中標津町立俵橋小学校

1．研究主題

『自分の思いを豊かに伝え合う児童の育成』～音声言語能力を高めるための指導の工夫～

2．研究内容

仮説１「基礎的・基本的内容を押さえた指導計画を作成し、個への支援を明確にした指導過程をふまえた音声言語活動を展開すれば、表現意欲が向上し、自分の思いを豊かに表現する力が身に付くであろう。」仮説２「一人一人のよさや願いを把握し、表現の場所や表現方法、表現に対する評価を工夫した音声言語活動を展開すれば、表現意欲が向上し、自分の思いを豊かに表現する力が身に付くであろう。」仮説３「言語環境の整備等を進め、日常の言語活動に対する支援を行えば、表現意欲が向上し、自分の思いを豊かに表現する力が身に付くであろう。」という仮説から研究内容を９つ設定し研究を行った。

3．公開授業

①１年生学級「しょうかいしよう」

「自分のことを言いたい。人の話はきかない。」という実態から、聞くことの大切さを学んでほしくカードを作り学習した。相互評価では、相手の発表を聞きカードにシールをはる形としたが、自己評価とのずれもでている事が課題である。

②5･6年『ポスターを使って調べたことを伝えよう』

音声言語の学年別指導は難しいということから、本時は評価項目をしぼり６年生は「間」、５年生は「順序」とし、この時間の目標をはっきりさせた。学習後、自分の発表が「変わった」「自信が持てた」という子が出てきたことが成果といえる。

4．研究協議

研究協議においては、①音声言語における学年別指導のあり方について②音声言語活動における評価の工夫についての２つの柱について、２つの授業で